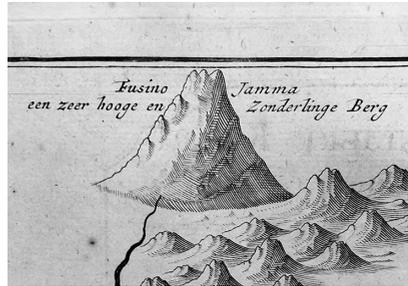




モンターヌス『東インド会社遣日使節紀行』
所収富士山図



ケンペル『日本史』所収富士山図

西洋人によって描かれた富士山の初期の図版

歴代オランダ商館長は毎年の江戸参府の道中で富士山を見る機会に恵まれていた。商館長日記に、東海道沿いの宿場の名称のみを記録する商館長もいれば、富士山への賞賛を綴っている商館長もいた。しかし、西洋人の手による富士山の絵は17世紀中にあまり見られない。管見の限り、最初に富士山の絵を掲載した外書は1669年に刊行されたモンターヌスの『東インド会社遣日使節紀行』である。しかし、モンターヌスの図版における富士山の表象は周囲の山より大きく描かれたものに留まっている。日本で定型化されていた三峰型で描かれる富士山図が西洋に最初に紹介されたのはケンペルの『日本史』（1727年刊）を通じてである。ケンペルの日記によると、彼が富士山を初めて見たのは、1691年3月7日に白須賀宿を通過した時だった。「当地で私たちは富士山、別名フジノヤマの山頂を初めて見た。その美しさは比類なきものであるかもしれない」と綴っている。

両書とも日文研所蔵外書（解説：フレデリック・クレインズ准教授）